

# 男性看護師におけるエンゼルメイクと化粧品に関する知識調査

キーワード：男性看護師 エンゼルメイク エンゼルケア

高度救命救急センターICU ○大西琢 森脇勝頼 出口大樹

## I はじめに

2014年、厚生労働省は「死後のケア」を新人看護職員の看護技術到達目標項目に新たに追加しており、超高齢社会においてその技術習得は急務であると言える。「死後のケア」の中でもエンゼルメイクに着目した湯谷の研究<sup>1)</sup>では「男性看護師と女性看護師の間には、エンゼルメイクに差があると看護師は意識している。」としエンゼルメイク教育の課題を示している。しかしエンゼルメイクの知識を調査した先行研究は見当たらなかった。そこで本研究で男性看護師のエンゼルメイクや化粧品の知識を4段階で調査したのでここに報告する。

## II 目的

男性看護師を対象にエンゼルメイク道具やその使用方法に関する知識を調査し、不足している知識を明らかにする。

## III 方法

### 1 用語の定義

#### 1) エンゼルメイク

「医療行為による侵襲や病状などによって失われた生前の面影を可能な範囲で取り戻すための顔の造作を整える作業や保清を含んだ‘ケアの一環としての死化粧’でありグリーンケアの意味合いも併せ持つ行為」<sup>2)</sup>と小林が定義したものを使用する。

#### 2) エンゼルケア

死亡確認後、ご遺体に対して行う清拭、保清、整髪、化粧、更衣などの一連の行為。先行研

究において用いられる「死後の処置」「死後のケア」と同義として扱う。

### 2 デザイン

量的研究

### 3 対象者

A病院に勤務する看護ケアに従事する男性看護師112名。管理業務が主体の師長以上の看護師は除外とした。

### 4 期間

2017年1月～2月

### 5 データの収集方法

エンゼルメイクの手順の掲載されている書籍<sup>3)</sup>を参考に独自で作成した質問紙を使用し、無記名で調査を行った。対象者への質問紙の配布は各所属師長に依頼し、回収は院内の所定の場所に回収BOXを設け、対象者に自ら投函してもらった。

### 6 調査内容

1) エンゼルケア実施の有無

2) エンゼルメイク経験の有無

3) エンゼルメイクを主となることができるかどうか

4) エンゼルメイクの研修・勉強会の参加経験の有無

5) エンゼルメイクの学習方法

6) エンゼルメイクと化粧品に関する知識

エンゼルメイクに関する書籍を参考にエンゼルメイクの手順、化粧や化粧品の目的と使用方法を4段階で回答を求め、「1」を「わからない」、「4」を「わかる」とした。

## 7 データの分析方法

まず調査内容1)～5)は単純集計をおこなった。6)は各質問項目ごとに回答の平均値を算出した。エンゼルメイクを主とすることができる群とできない群における「エンゼルメイクと化粧品に関する知識」の比較に Mann-Whitney U 検定を行った。

有意水準は1%とし、統計分析には開発者への同意を得た上で EZR(自治医科大学附属さいたま医療センター)を用いて行った。

## 8 倫理的配慮

本研究は奈良県立医科大学医の倫理委員会の承認を得て実施した。また対象が配属されている各部署の師長へ研究内容の説明を行い、同意署名を得た上で調査を行った。

質問紙には研究協力は任意であり参加が自由であること、研究協力を断っても不利益を被ることが無いこと、調査は無記名であること、回答には約10分時間を要すること、回収された質問紙が回収後持ち出されることが無いよう鍵をかけて管理すること、データ処理はネットワークから切り離されたコンピューターを使用し、USBなどに記録し、鍵のかかるところに保管すること、分析結果は5年間保存し、その後破棄すること、研究への参加は質問紙の提出をもって同意を得たものとするを明記した文章を添付した。

## IV 結果

質問紙は112名に配布し回答数は37名で回収率は33%であった。「エンゼルメイクの学習方法」の質問項目では単一回答であるところを複数回答したアンケートが5枚あったため、分析から除外した。その他の質問項目では回答のあった全てを有効回答として分析を行った。

### 1 対象者の背景

エンゼルケア経験の有るものは31名(84%)で無い者6名(16%)より多かった。エンゼルメイク経験のあるものは19名(51%)で無い者18名(49%)とほぼ同数であった。エ

ンゼルメイクを主とすることができる者は6名(16%)と少なかった。エンゼルメイクの研修・勉強会への参加経験は有る者10名(27%)、無い者27名(73%)であり、参加経験の無い者の方が多かった。

表1 対象者の背景(n=37)

	単位：人 (%)	
エンゼルメイクの経験	有り	31 ( 84 )
	無し	6 ( 16 )
エンゼルメイクの経験	有り	19 ( 51 )
	無し	18 ( 49 )
エンゼルメイクを主とすることができるか	できる	6 ( 16 )
	できない	31 ( 84 )
エンゼルメイクの研修・勉強会参加の有無	有り	10 ( 27 )
	無し	27 ( 73 )

### 2 エンゼルメイクの学習方法

エンゼルメイクの学習方法について単一回答を求めた結果では「先輩」が11名(34%)で最も多く、次いで「学校」4名(13%)、本・教材、研修会が各3名(10%)、インターネットが1名(3%)と、合計70%の男性看護師は学習経験があった。一方で「学習していない」9名(28%)であった。

表2 エンゼルメイクの学習方法(n=32)

	単位：人	%
本・教材	3	( 10 )
学校	4	( 13 )
先輩	11	( 34 )
インターネット	1	( 3 )
研修会	3	( 9 )
学習していない	9	( 28 )
該当なし	1	( 3 )

### 3 エンゼルメイクと化粧品に関する知識

エンゼルメイク道具と化粧品に関する知識を4段階で質問した結果が表3である。「わかる」「だいたいわかる」と回答した者が最も多かったのは「マスカラの使用方法」で43%であった。次いで「ファンデーションの使用目的」35%、「乳液の使用目的」「アイラインの使用目的」「リップカラーの使用目的」が33%、「チークカラーの使用目的」「リップカラーの使用目的」32%、「乳液の使用目的」30%、「フ

ファンデーションの使用方法」「チークカラーの使用方法」「アイラインの使用目的」「マスカラの使用目的」27%であった。その他の「エンゼルメイクの手順」「クレンジングマッサージの目的」「クレンジングマッサージの方法」「フェイスパウダーの使用目的」「フェイスパウダーの使用方法」を「わかる」「だいたいわかる」と回答した者は8～13%であった。

表3 エンゼルメイクと化粧品知識(n=37)

質問項目	わかる人 (%)	だいたいわかる人 (%)	少しわかる人 (%)	わからない人 (%)
エンゼルメイクの手順	2(5)	3(8)	18(49)	14(38)
クレンジングマッサージの目的	1(3)	4(11)	11(30)	21(57)
クレンジングマッサージの方法	1(3)	3(8)	11(30)	22(59)
乳液の使用目的	2(5)	10(27)	13(35)	12(32)
乳液の使用方法	4(11)	7(19)	12(32)	14(38)
ファンデーションの使用目的	2(5)	11(30)	13(35)	11(30)
ファンデーションの使用方法	2(5)	8(22)	16(43)	11(30)
フェイスパウダーの使用目的	0(0)	3(8)	11(30)	23(62)
フェイスパウダーの使用方法	0(0)	3(8)	10(27)	23(62)
チークカラーの使用目的	3(8)	11(30)	15(41)	10(27)
チークカラーの使用方法	2(5)	8(22)	12(32)	15(41)
アイラインの使用目的	1(3)	3(8)	14(38)	13(35)
アイラインの使用方法	0(0)	10(27)	13(35)	12(32)
マスカラの使用目的	2(5)	8(22)	14(38)	13(35)
マスカラの使用方法	2(5)	6(16)	10(27)	11(30)
リップカラーの使用目的	3(8)	9(24)	17(46)	8(22)
リップカラーの使用方法	3(8)	9(24)	16(43)	9(24)

#### 4 エンゼルメイクを主としてできる者と化粧品知識の関連

エンゼルメイクを主として「できる」群と「できない」群で、化粧品の知識の平均との関連をマン・ホイットニーU検定で分析した。その結果を表4に示す。全ての項目で有意格差が認められる結果であった。

#### 5 エンゼルメイクを主としてできる者と学習方法の関連

エンゼルメイクを主としてできる者と学

習方法の間に正確な関連を求めることはできなかった。

表4 エンゼルメイクを主としてできる者と化粧品知識の関連

エンゼルメイクと化粧品の知識	エンゼルメイクを主としてできる群 (n=6)	エンゼルメイクを主としてできない群 (n=31)	Mann-Whitney U検定結果
	中央値	中央値	
エンゼルメイクの手順の理解	3	2	**
クレンジングマッサージの目的	3	1	**
クレンジングマッサージの方法	3	1	*
乳液の使用目的	3	2	*
乳液の使用方法	3	2	*
ファンデーションの使用目的	3	2	*
ファンデーションの使用方法	3	2	*
フェイスパウダーの使用目的	2	1	*
フェイスパウダーの使用方法	2.5	1	*
チークカラーの使用目的	3	2	**
チークカラーの使用方法	3	2	*
アイラインの使用目的	3	2	*
アイラインの使用方法	3	1	*
マスカラの使用目的	3	2	*
マスカラの使用方法	3	1	*
リップカラーの使用目的	3	2	**
リップカラーの使用方法	3	2	**

\* = p < 0.01

\*\* = p < 0.001

## V 考察

今回の研究では有効回答が少なかった。また対象の所属や経験年数を問わず、あくまで「男性看護師としてのエンゼルメイク知識」を調査したものである。そのためエンゼルメイクに携わる機会の少ない部署の者や経験年数の少ない者の結果が強く反映されている可能性がある。以上より結果の信憑性は低く、研究目的の達成には至っていない。

エンゼルケアを行ったことがある男性看護師は84%いるのに対して、エンゼルメイクを行ったことがある男性看護師は51%であった。つまり男性看護師の中にはエンゼルケアは行うが、エンゼルメイクは行わない者がおりエンゼルメイクが敬遠されている可能性が

ある。表2から70%の男性看護師は何らかの形でエンゼルメイクを学習している。しかし「エンゼルメイクを主となつてできない者」が84%おり、また「エンゼルメイクを主となつてできない」者は「エンゼルメイクと化粧品の知識」の項目が他方の者より有意に低かった。このことから、現在の学習方法では男性看護師の「エンゼルメイクと化粧品の知識」の定着には十分でない可能性がある。

有効回答は少なかつたがアンケートから化粧品の基礎的な使用方法・目的ともに理解度が十分でないという傾向にある。このことから学習方法を道具の使用方法・目的など基礎的な部分から行っていくことも必要と考えられる。

厚生労働省によると平成26年の就業看護師は1,086,779人(男73,968人、女1,012,811人)で、平成24年に比べ71,035人(7.0%)増加している<sup>4)</sup>。その中で男性看護師の増加率は16.8%で、女性看護師6.8%に比べ増加率が高くなっている。今後も男性看護師が増加すれば、男性看護師だけでエンゼルメイクをすることも考えられる。そのためエンゼルメイクの知識・技術の定着状況を調査し、ケアの質の向上を図っていく必要がある。

## VI 結論

男性看護師のエンゼルメイクに関する知識不足を明らかにすることはできなかった。

## 引用文献

- 1)湯谷孝太郎：看護師のエンゼルメイクに関する意識—意識に影響を及ぼす要因—, 神奈川県立保健福祉大学実践教育センター 看護教育研究集録, 36, p. 16-23, 2011.
- 2)小林光恵：ケアとしての死化粧 エンゼルメイク研究会からの提案, 日本看護協会出版会, p. 18-19, 2004.
- 3)小林光恵：もっと知りたいエンゼルケア Q & A, 医学書院, p. 123, 2012.
- 4)厚生労働省 (2015), 平成26年衛生行政報